

# 「世界平和の祈り」の大道の先駆けとなろう！

2012年1月

「世界平和の祈り」の先駆けとして生きる .....	2
新年に当たって——唯一会は今年も「世界平和の祈り一本槍」で歩いてゆきます .....	2
今こそ全力を尽くして「世界平和の祈り」を実行する時 .....	2
人類に与えられた最終の試練 .....	5
「世界平和の祈り」の大道の先駆けとなろう！ .....	6
「世界平和の祈り」は人類の合い言葉 .....	8
森喜朗首相「日本は天皇中心の神の国」発言と「世界平和の祈り」 .....	8
「世界平和の祈り」は必ず世界の合言葉になります .....	9
参考：「世界平和の祈り」は人類の合言葉 .....	9
質疑応答1：現代にふさわしい「世界平和の祈り」 .....	10
参考：自分を中心に大きな円を描きましょう .....	12
質疑応答2：理想を着実に現実化している「世界平和の祈り」 .....	12
参考：不安を抱かず、「世界平和の祈り」を信じよう .....	14

## 「世界平和の祈り」の先駆けとして生きる

**新年に当たって——唯一会は今年も「世界平和の祈り一本槍」で歩いてゆきます**

今年も私たちは「世界平和の祈り」一本槍で、お祈りしてまいります。

「世界平和の祈り」以外の行法は、私たちは行ないません。「世界平和の祈り」は、人間の神性を開顕する方法としても、世界平和を実現する方法としても、最良最善の方法です。これを理解できた人、この真実を信じることのできる皆さんは、神の最後の試練に合格した真に幸いなる人であるのです。

世界人類が平和でありますように

この祈りを祈る時、救世の大光明は私たちに輝き、私たちは神我一体となって大光明を放っているのです。神性が開発されてゆくとともに、天命を完うするために必要な現世利益も自然に神から与えられてゆきます。「世界平和の祈り」を祈っているだけで、個人の私たちの幸福も家族の幸福も、自ずと叶えられてゆくのです。人類の業想念が消え去った後には、病気も無い、貧乏も無い、苦しみも無い、悩みも無い、明るく楽しい人生が人類の未来に開けてくるのです。しかし、現実にならざるまでには、業想念が消え去るまでには、まだまだ時間が必要です。

とって、「世界平和の祈り」以上の善い方法はないのです。「世界平和の祈り」が世界を平和にする最善の方法であることに変わりはありません。決して焦ることなく、迷うことなく、「世界平和の祈り」をひたすらに専心して祈り続けてゆかねばなりません。より早く自己の神性を開顕したいと思うならば、「世界平和の祈り」を熱心に祈ればよいのです。より早く世界平和実現を望むなら、「世界平和の祈り」を熱心に祈ればよいのです。修行の好きな人は、「世界人類が平和でありますように」を朝から夜まで、数万回でも数十万回でも唱えればよいのです。修行のしたくない人は、一日一回でも唱えればよいのです。

ともかく一番大事なことは、「世界平和の祈り」は最善の祈りであり、この祈り以上に優れた祈り言や行法はないのだと悟り、心を動かさずに「世界平和の祈り」に全託することであるのです。今頃になって、「世界平和の祈りよりも、もっと善い方法はないだろうか？」と、神性顕現の方法について迷ってはいけません。「あの方法はどうだろうか？この方法はどうだろうか？」と迷ってはいけません。私たちの生きる道は「世界平和の祈り」の道であり、「世界平和の祈り」以外に私たちの道はないのです。

**今こそ全力を尽くして「世界平和の祈り」を実行する時**

「戦争をなくそう、子どもたちを兵士にさせるのを禁止させよう、戦争の現実を忘れないようにしよう」という宣言をするのは無駄ではありませんが、それだけでは戦争を消滅

させる大きな力とはなり得ません。「戦争のない平和な世界にしよう」と平和宣言をするのは、無駄ではありませんが、戦争をしている国の指導者たちの耳には、そんな平和宣言など届かないのです。平和を宣言するのも結構ですが、なぜ「世界人類が平和でありますように」と一言祈らないのでしょうか。多くの人々が一体になって、声を合わせて「世界人類が平和でありますように」と祈れば、もっともっと世界平和のために大きな力となると思うのです。多くの人に私はそのことを強く提言したいのです。

世界を平和にするには、子どもたちの兵役に就く年齢を引き上げたり、地雷をなくしたり、戦争の実情を世界に知らせたりすることも必要ではありますが、何れも枝葉の方法でありまして、地球を真実に平和にする根本的な方法ではありません。核兵器の恐怖によって戦争を一時的に抑えたとしても、争いの想念がなくなる以上、いつまた戦争が勃発しないとも限りません。戦争をしていない国々が戦争をしている国に対して「戦争を止めなさい」と諫めても、「自国の政策に干渉してもらいたくない」と言われたら、それ以上何もできません。戦争をなくすために、警察のように正義のための軍隊を派遣するというのは、これは他国からの見方でありまして、当事国にとっては、それは正義とは映らないかも知れません。より強力な武器をもってある程度他の武器を制することはできても、完全に制することは不可能です。武器によって世界を平和にすることはできないのです。愛の祈りによってのみ武器をなくすことができるのです。地球を平和にするには、人類の心から争いの想念をなくすこと、つまり人類の心を平和にしなければなりません。人類の心が平和になれば、自ずと武器は必要なくなり、地雷も必要なくなり、軍隊も兵士も必要なくなるのです。その一番根本的な「平和な心」を如何にしたら人類のものとすることができるか、多くの知識人はその方法についてなぜ言及しないのでしょうか。

人類の心を平和な心にするには、守護の神霊に向かって、「世界人類が平和でありますように」と祈ればよいのです。守護の神霊を信じたくない人は、信じなくともよいから、各自の好きな思い方でよいから、「世界人類が平和でありますように」と祈って下さればよいのです。「戦争をしたくない、平和な世界にしたい」と誰しも望んでいるのですから、その気持ちを「世界人類が平和でありますように」という祈り言に明らかに表現すればよいのです。「戦争がなければいい、世界が平和になればいい。誰かが平和にしてくれるだろう」と弱々しく心に思っているだけで何も行動しなければ、世界は平和にはなりません。世界を平和にしたいのであれば、その心を「世界人類が平和でありますように」という祈り言にまで高め、口に出し、ペンに書き、世界へ向けて常に宣布してゆかねばなりません。「世界人類が平和でありますように」という人類愛の祈り言を常に唱えている人の心が平和にならぬわけがありません。

戦争は、「戦争をしよう」という人の想念から生まれるものです。「世界人類が平和でありますように」と常に愛の心でいれば、その人の心に「戦争をしよう」とか「相手をやっつけて滅ぼそう」という想念は湧いてくるはずがありません。具体的に提言したいのは、各国の首脳の会談や交渉の場において、常に「世界人類が平和でありますように」と祈る

セレモニーを実行することを私はお勧めしたいのです。そして、「あなたの国が平和でありますように」とお互いに祈ってから実務的な会談に入るようにすれば、多少の意見のズレはあったとしても、双方の国が調和の方向へと進んでゆくに違いありません。この簡単で効力のある祈りによる平和運動を、なぜ日本国は積極的に進めないのでしょうか。首相の立場になった人は、もう首相の地位を得たのですから、あとは首相の座を捨ててもいいから、「世界人類が平和でありますように」と声を大にして日本国民や世界人類に向かって祈っていただきたいものです。首相が伊勢神宮にお参りしたり国会近くの神社にお参りするのをニュースで見ますが、「世界人類が平和でありますように」と一言発言してもよいではありませんか。なぜそれができないのでしょうか。それは、現在の政治家に勇気がないからです。日本の国を真実に愛していないからです。世界を平和にする熱意がないからです。

何れは「世界平和の祈り」を公言できる政治家が現れることでしょうか、私たちは政府や行政に頼ってはいけません。国連に頼ってはいけません。マスメディアに頼ってはいけません。私たちが世界を平和にしなくて一体誰がやると言うのですか？ 私たちが世界を平和にしなくてはならないのです。私たちが「世界平和の祈り」を広めなくては誰もやりません。私たちが「世界平和の祈り」を広めるのです。私たちが「世界平和の祈り」を祈るのです。私たちが世界を平和にするのです。私たちの愛の祈りの力によって世界の紛争や戦争を消滅してゆかねばなりません。

現在は自分の幸福と人類の平和とが密接につながっている時代です。日本は世界から多くの物資を輸入しておりますし、石油が輸入できなくなっただけでも、日本の産業は大打撃を受けてしまいます。日本が平和であるからこそ個人も平和に暮らせるように、世界が平和でなくては、日本国民も真実に平和には暮らせません。日本の商社をはじめ多くの会社が外国に支店を持ち、多くの日本人が外国で暮らしているのですから、外国で紛争があれば、日本にいる家族がたちまち不安になります。世界が平和でなくては日本国も平和ではいられないように、世界が平和でなくては日本人個人も平和ではいられません。個人の幸福は、もし国が戦争を始めれば一瞬にして崩れさってしまう脆い幸福であるのです。個人の真の幸福を得るためには、国が平和であると同時に世界が平和でなくてはなりません。このように、世界の平和と個人の幸福は直接つながっているのです。従って私たちは、自分の幸福や家族の幸福を望むならば、まず世界の平和を祈り、国の平和を祈らなくてはなりません。世界の平和が確立することによって、私たち個人の幸福は確立されるのです。世界が真実に平和にならなくては個人の真の幸福は得られないのです。

平和とは争いのないことだけではありません。戦争のないことだけではありません。地震や津波や火山爆発による災害もなく、病気もケガもなく、公害も事故もなく、富や地位の奪い合いもなく、怒りも嫉妬もなく、不安も悩みもない実相の姿です。その実相の世界を無理なく自然にこの世界に現すことが「世界平和の祈り」で可能となるのです。すなわち、個人と人類の理想の世界が、「世界平和の祈り」によって同時に現実化されるのです。世界が平和にならなくては個人の真の平安はありませんから、個人の幸福と人類の平和は同時に成就（成道）されるのです。現代の祈りの条件は個人人類同時成道の祈りでなくて

はなりません。核兵器の保有国が増え、地球規模の危機が差し迫っている時代に個人の幸福だけを追い求める小さな祈り言をやっていたのでは地球は滅亡してしまいます。今こそ地球の平和完成のために私たちは全力を捧げなくてはなりません。と、個人を幸福を追い求めてはいけないと申しているのではありません。自分の幸福を追い求めてもよいから、その望みを「世界平和の祈り」に集約させて祈りなさい、と申しているのです。「世界平和の祈り」を祈っていれば、個人の望み事は、特に望まなくても、念じなくとも、天命を完うされるために必要な事物は守護の神霊から全て授けられるのであります。

五井先生によって、「世界平和実現の最善の方法は世界平和の祈りである」と私たちは教えられました。「世界平和の祈り」は、地球を救う神々から五井先生を通して地球人類に授けられた祈り言であるのです。「世界平和の祈り」は誰もが思いつくような易しい表現でありながら、五井先生よりも過去に思いついた人は一人もいませんでした。五井先生の時代に至って、世界を平和にする「世界平和の祈り」の祈り言が神からついに授けられたのです。そして、「この祈り言こそ人類史上において最初で最後の真の祈り言である」と神は教えて下さったのです。この「世界平和の祈り」以上に靈性開発に効果のある祈り言がどこにあるのでしょうか？ もしもあったら教えてほしいものです。

「世界平和の祈り」以上に世界平和に効果のある祈り言は他にはないのです。今さら迷ってははいけません。「世界平和の祈り」以外の行法に無駄な時間を費やしている時ではありません。神智から生まれた「世界平和の祈り」に、肉体知の浅知恵で思いついた行法が及ぶはずがありません。地球人類は今こそ「世界平和の祈り」に全精神を統一し、「世界平和の祈り」を合言葉に人類の心をついに結ばなくてはなりません。「世界平和の祈り」という人類共通の合言葉を持つことによって、次第に人類の心は一つに調和してゆくのです。

合言葉が二つも三つもあったら人々は迷います。合言葉は一つで充分であるのです。再度申し上げますが、「『世界平和の祈り』以上の靈性開発の方法がどこかにあるのではないか、もっと善い方法があるのではないか」と迷っている時ではありません。今こそ私たちは全精神を「世界平和の祈り」に統一し、全力を尽くしてこの祈りを実行する時であるのです。

### 人類に与えられた最終の試練

同じ教えでも、理解する深浅の度合いは人によってまるで異なっているのです。

「『世界平和の祈り』が最善の祈りである」と頭では知ってはいても、実際には「世界平和の祈り」だけでは不安でたまらずに自力多行を行なっているようでは、“「世界平和の祈り」は最善の方法ではない”ということになり、真実に五井先生の教えを知ったとは言えません。また、「『世界平和の祈り』は完全な祈りである」と説きながら、実際には他の行法を付け足しているようでは、“「世界平和の祈り」不完全な祈りである”という

ことになり、これまた五井先生の教えを真実に知ったとは言えません。実際に実行できてこそ真実に教えを知ったということになるのです。唯一会の皆さんは、実際行動として「世界平和の祈り」一念に徹しておられるのですから、皆さんは五井先生の教えを真実に知った人であるのです。

五井先生の他界後、「『世界平和の祈り』は真実に究極の祈りであるのか？」という神の試練を私たちは改めて受けたのです。神のその質問に対して、ある人々は、「『世界平和の祈り』はもう既に過去の古い祈り方であり、現代の究極の祈りではない。『世界平和の祈り』だけでは足りない。『世界平和の祈り』だけに把われてはならない。他の行法もやるべきだ」と答え、私たちは「『世界平和の祈り』は今もそして永遠に究極の祈りである」と答えました。その結果、私たちは神の試練に合格し、永遠の幸福を授かり、「『世界平和の祈り』は究極の祈りではない」と答えた人々は、再び無限とも見える試練の道へと転落して行ったのです。五井先生の教えを真実に理解できるまで、神は何度でも何度でも試練を与え続けるものなのです。

雨が降って地面が固まるように、試練が与えられることによって人間は完成へと近づいてゆくのです。神が人類に最後に与えた試練とは、「『世界平和の祈り』は果たして究極の祈りであるのか否か？」という問題でした。神は五井先生を通して「世界平和の祈り」を人類に授けて下さいました。その上で人類が真実にその教えを理解し得たかを確かめるために、神は様々な新しい思想や教えや行法を指し示し、その誘惑に負けないかどうかを厳しい眼差しでじっと見つめてきたのです。

五井先生があれほど「『世界平和の祈り』は完全であり最善の祈りである」と説いたにも拘わらず、五井先生が他界すると、五井先生の教えを疑い、五井先生の教えを捨てる人さえ現れてきました。それは、釈尊が他界した後に、釈尊の真実の教えを理解できず、誤って解釈する人々が多く現れてきたのと似ています。しかし、神の試練に不合格になったからといって、その人々を放っておくわけにはまいりません。そこで慈愛の神は、最終の試練に全ての人々を合格させようと私を使わし、五井先生の教えを改めて説き直し、「『世界平和の祈り』は完全であり最善の祈りであるのだ」と強く宣言し始めたのであります。私の行為は五井先生のみ心によって導かれているのであり、唯一会は神のみ心で創立されたのです。神の最終の試練に合格した人々のみが唯一会に集まっているのです。一度試練を受けて、その試練をくぐり抜けてきた人ばかりなのですから、「世界平和の祈り」の救世の大光明が輝かないはずがありません。

唯一会の私たちは真実に幸せです。この幸せを人々に与えようと、私たちは「世界平和の祈り」を日夜祈り続け、「世界平和の祈り」の素晴らしさを讃え、「世界平和の祈り」を伝道しているのであります。

**「世界平和の祈り」の進行の先駆けとなろう！**

総合宗教の始まりである出口王仁三郎聖師の大本教、谷口雅春師の生長の家、五井先生の白光真宏会へと宗教の系統があるわけですが、この三団体は過去に師弟関係があったものの、その教義や行法は全く異なる内容となっております。それに対して、白光真宏会と唯一会の関係は、浄土宗と浄土真宗の関係に似ていて、同じ「南無阿弥陀仏」を行としているように、同じ「世界人類が平和でありますように」を行しております。唯一会は五井先生ご在世中の白光真宏会と全く同じであるとも言えるのです。

五井先生の教えの特長というのは、何と言っても他力易行道であることです。守護の神霊に加護と導きを祈り、日常生活を何ら崩さずに「世界平和の祈り」を祈り続けてゆけば、個人の幸福も人類の平和も同時に成就される、という易しい道です。現代の宗教の道は全ての人々が救われる道でなくてはなりません。全ての人々が救われなくては地球は滅亡してしまうからです。そのためには、何と言っても行法が易しくなくてはなりません。「世界人類が平和でありますように」と祈れば、難しい理屈を何も知らなくても、難行苦行を何もしなくても、個人も人類も救われるのだという五井先生の教えが地球人類に光明を与えて下さったのです。

五井先生が新しく切り開いて下さった道を私たちはただ信じて行じてゆきさえすればよいのですから、これほど簡単なことはありません。「『世界平和の祈り』を行じるだけでよい」という易行道であるからこそ、この祈りと教えは世界に大きく広がる可能性を持っているのです。自力難行道の教えでは、一部の上根の人には理解されても、多くの一般大衆に受け入れられることはありません。大衆に受け入れられない宗教であっては、その宗教がどんなに高い優れた道であっても広まることはありません。大衆に広まることなくしては、個人の救われだけで、国や世界を善い方向へと動かす力を持つには至りません。

唯一会は五井先生のみ教えを忠実に継承し、「世界平和の祈り」を唯一の行としており、「世界平和の祈りを祈りさえすれば、あなたも人類も救われるのだ！」と易しい救われの道を説いているのですから、唯一会の支持者が増えないはずがありません。食べるために、生活のために、家族を養うために一日の大半を費やさなくてはならない多忙な現代人にとって、何十分、何時間もかかるような行法や、聖地に行かなくては救われたいとする教え、祈り言を数万回も唱えたり書いたりしなくてはならないという多行であっては、経済生活に恵まれ、時間にゆとりのある僅少の熱心な信者は行ない得ても、多くの民衆はついてはゆけません。高い真理を説いて自己を神の如く偉く見せたいという欲望を満足させている独りよがりの宗教者は、いつしか気がついて後ろを振り返ってみたら、自分について来る者は誰もいなかったということになるのです。

「世界平和の祈り」は、誰もが易しく入れて、しかも宇宙神の奥深いみ心にまで通じている道であるのです。「世界平和の祈り」の道は、無限に高く、無限に広く、どこまで行っても果てしなく進化向上してゆく道であるのです。宇宙神のみ心であり、神人一如の境地でもある「世界平和の祈り」を唱えておきますと、自然に花が開いてゆくように、本来

の人間である神の子の姿が自然に現れてくるのです。心は太陽のように明るくなり、どんな困難にも挫けぬ強い勇気が満ちあふれ、見るもの全てが美しく光り輝いて見えるようになり、万物に感謝できるようになります。

「世界平和の祈り」を祈り続けてゆけば、自分のいるところは明るい天国となり、自分の周囲の人々に光明を与え、全ての悪は消え、全ての悪人は善人によってゆくのです。自分の歩くところ、自分の進むところ、全てが光明化してゆき、世界を平和にしてゆくの です。このように、「世界平和の祈り」を祈っているだけで、知らぬ間に平和の使徒の働きをすることになるのです。人類にとってこんなに易しく素晴らしい道である「世界平和の祈り」が広まらないはずがありません。必ず広まるに決まっております。私たちは「世界平和の祈り」の進行の先駆けとしてお祈りしてまいりましょう。

## 「世界平和の祈り」は人類の合い言葉

### 森喜朗首相「日本は天皇中心の神の国」発言と「世界平和の祈り」

10年ほど前になりますが、森喜朗首相（当時）が2000年5月15日の神道政治連盟国会議員懇談会の結成30周年祝賀会で行なった挨拶の中で、「日本の国、まさに天皇を中心にして神の国であるぞということを、国民の皆さんにしっかりと承知をしていただくということ、その思いで我々が活動して30年になったわけであります。」と発言した言葉が、マスコミや野党から批判されただけでなく、与党の一部からも批判され、近隣の中国や韓国からも批判の声が聞こえてきました。「日本は天皇中心の神の国」という当時の森首相の発言は憲法1条の「天皇の地位・国民主権」に反しており、同20条の「信教の自由、国の宗教活動の禁止」にも反しているというのがマスコミの論調であり、仏教団体の一部やキリスト教団体の一部も同様の内容の批判をしておりました。

戦前と違って、戦後の日本は「天皇を日本の中心とする」という意識が国民の多くの意識から薄れてしまいました。天皇を尊敬し、天皇を日本の中心とすることに賛成する人は依然として大半を占めてはいるのですが、それに反対する人も多く、「天皇を日本の中心とする」意見に日本人の意識を統一することは、現在はどうみても無理であろうと思われる。また、「日本は神の国」という言葉については仏教信徒の一部からも猛反対を受けています。神という言葉は仏典にも出てくるのですが、政府が仏教よりも神道を重んじるように感じられて反発を抱くようです。すると「神」という言葉もまた日本人の心を統一する言葉ではないことが分かります。或は仮に首相が「日本は仏国土」と言ったとしたら、今度は仏教以外の宗教を信仰している人たちの批判にさらされることでしょう。このように、神と言っても、仏と言っても、どちらを言っても批判されてしまうのですから、宗教界を統一することは大変難しいのです。

日本国を愛し、日本人の心を一つに調和させたいと願う私たちにとりまして、このような現実の世論を無視することはできません。多くの反対論者を無視して自己の主張を押し通そうとしましても、たとえそれが正しい主張でありましても、反対論者に聞き入れられるのは難しいことです。それを考えますと、今後の日本人の心を一つに結ぶには、「天

皇」とか「神仏」以外の「反対されない言葉」を考え出さねばならないということになります。そこで、日本人の心を統一し、しかも誰にも反対されない言葉が「世界人類が平和でありますように」という愛の祈り言であると、私たちは日本国民の皆さまに訴えたいのです。この「世界平和の祈り」は、神道にも仏教にもキリスト教にも、その他の宗教にも反対されることなく受け入れられる祈り言であるのです。「日本は世界を平和にする天命を持つ国であり、日本人は心一つにして世界の平和を祈っています」と日本の首相が発言すれば、どの宗教者にも反発されることなく、他国の非難を受けることもなく、世界各国の人々から日本は称賛されることでしょう。

私たちには一人の敵も反対者もないのです。私たちは世界の全ての人々を愛しているのです。日本国を愛し、日本の未来の発展を願う人々は、ぜひ「世界平和の祈り」の祈りの合言葉を唱えるようにしましょう。「世界平和の祈り」は世界人類の平和を祈っているのですから、全ての宗教者の幸福を祈る意味も含まれているのです。どの宗教団体にも反対されることはありません。「世界平和の祈り」こそ、日本人の心一つに結び、世界人類の心一つにつなぐ最も重要な合言葉であるのです。

#### 「世界平和の祈り」は必ず世界の合言葉になります

「世界平和の祈り」は一宗一派の祈りではありません。仏教寺院にもキリスト教教会にも、その他の宗教の場所にも、「世界人類が平和でありますように」のピースポールが多く建立されている事実がそれを証明しております。「世界平和の祈り」は急速に世界各地に拡大しており、何れは全ての宗教者が「世界人類が平和でありますように」と心一つに祈るようになることでしょう。

個人がどの宗教を信仰するかは、これはあくまでも個人の自由意思で判断し決定すべきものです。従って、「世界平和の祈り」が一宗一派の祈りではなく、どんなによい祈り言であろうとも、相手が嫌がるのに、無理やりに押しつけてはいけません。自己の信仰や祈りを無理に人に勧めることをしてはなりません。「世界平和の祈り」を一宗一派の祈りと見ても、それはその人の自由ですから、そう見ようと、そう思っても、それは個人の自由で構わないのです。しかし、「世界平和の祈り」が世界に広まってゆくにつれて、そのような誤解も次第に消えてゆき、全ての宗教者、全ての人々に理解されてゆくことと思えます。そして、「世界平和の祈り」は必ず世界の合言葉になると私は固く信じております。

#### 参考：「世界平和の祈り」は人類の合言葉

参考までに五井先生のみ教えを抜粋いたします。

《「世界人類が平和でありますように」という言葉を、人類すべての祈り言の中心として唱えつづけることが、人類の心一つ祈りにする、最短距離であることを知ったのであります。…各宗教宗派の人たちは、それぞれの祈り言は、それぞれでつづけてゆかれればよ

いでしょうが、全宗教の合言葉のように、「世界平和の祈り」を中心にして祈ることが必要なのです。今は、何宗も何派もありません。地球の滅亡を防ぐことが、唯一無二のことなのです。地球を滅ぼすのは、鬼でも悪魔でもありません。人間の謝った業の心、不調和な心が、自らを亡ぼそうとしているのです。その業の心を持ったままで、日々瞬々「世界平和の祈り言」にのり、神の大光明の中で、その業を消して頂くのです。その繰り返しによって、個人も救われ、やがては人類そのものも救われてゆくのです。神と人間との一体化以外には、人類の救われはない、ということ、あらためて認識して下さい。》

(『自らを信ぜよ』 白光真宏会出版局、p.61～63 より)

### [解説]

「世界平和の祈り」は人類の中心の祈り言であり、人類の心をつなげる最短距離の祈り言であり、かつまた全宗教の中心の祈り言であるのです。今は「自分の宗教が最高だ」と言って各宗教・各宗派が争っている時ではありません。全宗教者が心をつなげて世界平和のために祈り、人類愛の心を広めてゆかねばなりません。神道、仏教、キリスト教、ヒンズー教、イスラム教、全ての宗教者の皆さん、今こそ宗教宗派の垣根を超えて一堂に集まり、「世界平和の祈り」を祈りましょう。私たちは、排他的にならず、全ての宗教者と積極的にお会いし、一緒に「世界平和の祈り」を祈り、交流を深めてゆきたいと思っております。

## 質疑応答 1：現代にふさわしい「世界平和の祈り」

### 【ご質問-1】 [「世界人類の一人目は自分自身」という言葉について]

私がかつて所属したことのある神道系団体の指導者から「『世界人類』の一人目は『自分自身』である」という言葉を聞いたことがあるのですが、これについてどう思われますでしょうか？

### 【お答え-1】 [自分を中心に、力まずに大きな円を描きましょう]

「世界人類が平和でありますように」の祈り言にある世界人類の中には、もちろん自分も家族も親戚も含まれておりまして、日本人だけではなく地球人全てが含まれております。もっと詳しく申しますと、地球以外の宇宙の星々に住む人類も含まれているのですし、肉体界とは次元の違う幽界・霊界に住む人類も含まれているのです。白光真宏会が「世界人類が平和でありますように」を英語で“MAY PEACE PREVAIL ON EARTH”と訳したのは、欧米に多いクリスチャンの方々に馴染みやすくするために聖書の表現に近くしたのではないかと思います。 “ON EARTH”では地球や肉体界の地上に限定されてしまいますから、最近私は、“MAY PEACE BE IN THE WORLD”と、本来の祈り言の意味に近い英訳をやることにしました。

ところで、ご質問の『「世界人類」の一人目は「自分自身」である』という言葉について

ですが、自分を世界人類の一人目にしようと、二人目にしようと、百番目にしようと、30億人目にしようと、中心者にしようと、はじっこにしようと、そんなことはどうでもいいことのように私には思われるのです。人類は一つの大生命から分かれた小生命の集合であり、人類と言っても元々は一つの生命体であるのですから、自分も人類も同じ生命体です。生命においては、自分の方が偉いとか他人の方が偉いとか比較をしたり順位をつけられるものではありません。人類は誰しも平等に尊い生命であるのです。

但し、「世界人類が平和でありますように」と祈る時、救世の大光明は自分の器（肉体）を通して横へと広がってゆくのですから、自分が最初に救世の大光明に浴するのであり、自分が救世の大光明の中心に立つことになることは間違いありません。「世界平和の祈り」を祈っている自分から世界平和は始まるのであり、自分の心から平和になってゆくことは確かです。お金や権力を独り占めにするわがままな独裁者は困りますが、平和の中心者は誰がなっても構いません。平和の中心者は他人に迷惑をかけることはないからです。「日本人は最も優れた民族である」とか「日本は最強の兵器を持った国家である」とか「日本は世界経済を動かす中心国である」と言えば他国から反発を受けますが、「日本は世界平和の中心国である」と言えば、他国から尊敬されることはあっても、非難されることはありません。

世界平和は自分から始まるのです。そう自覚することは悪いことではありません。「誰かが世界を平和にしてくれるだろう」と、現実の世界情勢に少しも関心を持たずに自分一人の幸福を望んでいる人は地球を破滅させる片棒を担いでいる人と厳しく言っても、それは過言ではありません。世界を平和にするのはあなたなのです。「世界平和の祈り」を祈らなくてはならない人は、誰でもない、あなたであるのです。この地球が平和になるか滅亡するか、その運命はあなたが握っていることを忘れてはいけません。その意味では、あなたの心が第一に平和な心境にならなくてはなりません。

しかし、実際には難しく考えることはありません。日常生活を崩さずに「世界平和の祈り」を祈っていれば、そう力まなくても、あなたの心は自ずと平和な心境になってゆくのであり、あなたの家族もあなたの周囲も、世界も、水の波紋が広がってゆくように自ずと平和になってゆくからです。ですから、「世界は平和になる」と未来を信じた上で、あとは現実にしっかりと足をつけて、現実の仕事や勉強や育児や家事に心を集中し、暇をみては「世界平和の祈り」を祈ってゆけばよいのです。こうすれば、現実の肉体生活を犠牲にすることなく宗教の道を行じてゆけるのです。

この忙しい現代において、何時間もかかる読経や行法を行なうことはできません。宗教の道を行じるために、現実の仕事や家庭生活を犠牲にしては本末転倒です。そうした現代に最もふさわしい方法として「世界平和の祈り」が神から授けられたのです。「世界人類が平和でありますように」と一言祈るのに十秒もかかりません。どんなに忙しい人でも、一日に十秒間くらいは世界平和のために使ってもよいではありませんか。しかも、この「世界平和の祈り」は、世界平和のために大きく役立つと同時に、あなた個人の生活をも根本から幸福にしてゆくのです。このような点から、現代の人類の神性開発法としては「世界

平和の祈り」が最も易しく最も効果的な方法であると私はここに断言するものであります。

### 参考：自分を中心に大きな円を描きましょう

「自分が先、自分が第一」と考えるのは結構なのですが、自分だけで止まってしまますと、自分だけの幸福しか考えない小さな人物になってしまいます。「自分の生活も幸福になっていないのに世界人類の幸福なんて考えるべきではない」と如何にも尤もらしく言う宗教者がおりますが、自分が立派な心境になってから世界を平和にするのでは、地球破壊の危機が迫っている現在では時代遅れの古い考え方であると思います。

「まず自分の心境が立派になること」「まず自分が幸福になること」「まず自分が悟ること」「まず自分が幸福になること」と自分の幸福だけを考えていたら、心の狭い利己主義の人になってしまいかねません。自分を世界人類の一人というふうと考えて、自分だけの幸福を望む想いを人類愛へと大きく広げてゆく必要があるのです。自分を中心に小さな円を描くのではなく、大きな円を描くことです。

「あなた自身がまだ幸福にもなっていないのに、何が世界人類だ。世界人類の平和の前に自分が幸福になって見せろ。自分の幸福だけを考えろ」とある宗教指導者があなたに説いても、「ああ、この人の想いは消えてゆく姿だな。世界人類が平和でありますように」と「世界平和の祈り」を祈ることです。「世界平和の祈り」を祈ると、天に徳を積むことになるのです。

真実に悟っている宗教指導者に学ばず、悟っていない宗教指導者に学びますと、中途半端な誤った宗教観を植えつけられてしまいかねません。そのような宗教指導者たちの言葉は、どんなに偉そうな指導者の言葉であっても一度全部否定してしまい、新たな心で「世界平和の祈り」を学んで下さい。

## 質疑応答 2：理想を着実に現実化している「世界平和の祈り」

**【ご質問-2】** [「世界平和の祈りに合わせて念仏も取り入れて下さい」と言われたら]

あなたが真宗の人から「『世界平和の祈り』もいいけれど、『世界平和の祈り』の発祥元は法然・親鸞上人らが残した『南無阿弥陀仏』の念仏行であり、私たちの念仏行も個人人類同時成道の念仏ですから、あなたも『世界平和の祈り』に合わせてぜひ取り入れて下さい」と言われたらどうでしょうか？

**【お答え-2】** [私たちも真宗関係のお寺では念仏と同時に世界平和の祈りを唱えています]

確かに念仏の精神は現代にも生きており、それは「世界平和の祈り」に脈々と受け継がれております。法然さん親鸞さんの「南無阿弥陀仏」の心を継承して現代に合わせた祈り

言が「世界平和の祈り」であるのです。このように説けば、真宗系統の人々には段々と理解されてゆくことと思います。真実に「南無阿弥陀仏」を行じて悟った人が「世界平和の祈り」を聞けば、直ぐさま「世界平和の祈り」に賛同されることは間違いありません。「世界平和の祈り」を理解できない念仏行者は未だ「南無阿弥陀仏」と一体になってはいない人であると言ってよいのです。

阿弥陀仏は、「今は昔のように自分個人の幸せだけを願って念仏をしている時代ではありません。昔の言葉に把われず、今は『世界平和の祈り』を祈りなさい」と私を通して皆さんに説いているのです。なお「南無阿弥陀仏」については、もちろん私たちは初めから取り入れております。以前京都にある法然さんのお墓参りをした時には、私は「南無阿弥陀仏、世界人類が平和でありますように」とお祈り致しました。また、真宗関係のお寺に行ったり、その関係の人とお会いしたりした時には、「南無阿弥陀仏、世界人類が平和でありますように」と唱えております。

**【ご質問-3】**〔「世界平和の祈りと合わせて主の祈りも祈って下さい」と言われたら〕

また、キリスト教関係の人から「五井先生は『聖書講義』の中で若い頃『主の祈り』を熱心に祈っていたとあるし、『世界平和の祈り』と『主の祈り』は同格と言っておられることですから、ぜひ『世界平和の祈り』と合わせてキリストが残された『主の祈り』をも祈って下さい」と言われたらどうでしょうか？

**【お答え-3】**〔正しい祈りならば、世界平和の祈りを中心に喜んでその祈り言を唱える〕

もちろん、その時その場において自由自在に、「南無阿弥陀仏」と同様に喜んでキリストの「主の祈り」もさせていただきます。世界中のどの宗教宗派の祈りでも、それが正しい祈りであるならば、喜んでその祈り言を私たちは唱えます。私は外国での教会ではいつも「主の祈り」と「世界平和の祈り」を祈っておりました。クリスチャンと話す時には、必ず「主の祈り」とともに「世界平和の祈り」を唱えます。ただ、それを一つの固定した行事にすることにしますと、世界中の祈り言を唱えることになりまして、大変な時間がかかり、肉体生活にも負担がかかって、とても実行できません。従って固定した行事とすることは不可能です。私たちの目的は「世界平和の祈り」を広めることですから、「世界平和の祈り」を中心に祈ることは当然なことです。これはどなたにも常識的にご理解いただけるとと思います。

**【ご質問-4】**〔他の宗教で救われている人に世界平和の祈りを薦めるのは意味がない〕

イエス・キリストが残された福音や「主の祈り」で救われている人達に「世界平和の祈り」を薦めることは、（仮に強制はしなくても、またはそれらの宗教を否定しなくとも）あまり意味がないことではないかと思いたいのです。

**【お答え-4】**〔今は世界平和の祈りというキリスト（真理）によって人類が救われる時代〕

「あまり意味がない」というのは、あなたのご意見としてお聞きしておきます。「世界平和の祈り」をクリスチャンに強く勧めているのは私ではありません。イエス・キリストその人であるのです。

聖書で預言されている「キリストの再臨」とは、実は「世界平和の祈り」の地上界誕生を指すのですから、クリスチャンにとっては「意味がない」どころではないのです。現代は、「世界平和の祈り」というキリスト（真理）によって人類が救われる時代となったのです。ローマ法王に手渡しされ、バチカン宮殿の庭に「世界人類が平和でありますように」と書かれたピースポールが建立されたのも、それが象徴的に現れた例であるのです。

**【ご質問-5】** 「キリスト教や仏教の祈りで救われる人は現在はいないと言うのか」

「キリストの福音や祈りでは救われている人はない」と言われるのでしょうか、また、「念仏行で魂が救われている人は現在はいない」と言われるのでしょうか。

**【お答え-5】** 「個人の救いはともかく、世界平和の祈りによって全ての人々が救われる」

キリストの祈りで救われている人々は過去から現在に至るまでに数多くいますし、念仏行で魂が救われている人々もまた数多く存在しております。また、キリスト教も念仏門も正しく立派な宗教です。地球人類全ての人々がキリスト教の祈りでも念仏行でもやるようになれば、それだけで地球は救われます。しかし、どんなにキリスト教を普及しようと努力しても、念仏を普及しようとしても、現在の地球人類を見ますと、そうした正しい宗教の門に近づこうとすらしらない人々が多いのです。それは、過去の聖者の教えが、古い表現で書かれた書物で理解しにくかったり、あまりにも高い真理を説いていて一般人には実行が難しすぎると思われるからです。そこで、老若男女、幼児でも老人でも、各国の誰にでも意味の分かる「世界人類が平和でありますように」という現代語で書かれた易しい祈り言が必然的に生まれたのです。「世界平和の祈り」によって全ての人々が救われることになったのです。

**参考：不安を抱かず、「世界平和の祈り」を信じよう**

最後に、「『世界平和の祈り』なんかで世界が平和になるものだろうか？」とと思っている人が多くいると思いますが、それでは、そのように思っている人に聞きたいと思います。

そのような人は、「世界平和の祈り」が駄目ならばどの方法がよいと思われるのでしょうか。「世界平和の祈り」以上の平和運動がどこにあるのでしょうか。「『世界平和の祈り』なんかでは駄目だ」と否定しているだけで、より優れた代替論を発表できないのでは、ただの観念論者と人々から見られかねません。

神道の神社境内、仏教の寺院の庭、キリスト教教会の庭、その他の宗教団体の土地を含む世界各地に、ピースポールは 50 万本以上建立されています。国連の NGO としても認められたニューヨークに本部を置くソサエティ（WPPS）の発展や日本の五井平和財団の設

立などを見ても、急ピッチで「世界平和の祈り」は世界へと広がっているのが分かります。（なお、唯一会は白光真宏会や五井平和財団とは組織や活動内容は異なりますが、共に五井先生の「世界平和の祈り」の普及を支援している信者団体として活動しております。）

2000年の9月には、五井平和財団は日本武道館で1万人を集め文部科学省後援のWPPCが開催されました。「『世界平和の祈り』なんかで世界が平和になるものか」と「世界平和の祈り」を否定するのはご自由ですが、あなたの想像以上に「世界平和の祈り」は確実に世界に広まり続けているのです。また日本の政治家でも、自民党や民主党の古参議員ならば「世界平和の祈り」を知らぬ人はいませんし、多くの議員が「世界平和の祈り」の賛同者です。さらに経済界においても、大会社の社長の多くは「世界平和の祈り」を知っております。ですから、今後の日本において「世界平和の祈り」が広まらぬわけがありません。「世界平和の祈り」が国内海外に広まるのは時間の問題であるのです。

あなたは、「世界平和の祈り」が広まるという理想と「世界平和の祈り」の広まらぬ現実のギャップを大変に悲観され、「世界平和の祈り」を否定しているようですが、それは、あなたのご自分の部屋に閉じこもって、机の上だけで観念的に勝手に思考し想像しているからです。「『世界平和の祈り』なんかやったって大したことはないだろう」と悲観する前に、アメリカのアメニアで毎年開催されるWPPCに参加して、世界中の多くの人々と会ってごらんください。「『世界平和の祈り』なんか広まるはずがない」と悲観する前に、日本にどのくらいピースポールが実際に建立されているか、日本全国の神社、寺院、教会に実際に足を運んで見てごらんください。あなたの知らぬ間に、「世界平和の祈り」は想像以上に日本全国に、そして世界各地に広まっており、「世界平和の祈り」は理想を着実に現実化していることに気づくことでしょう。

テレビや新聞でニュースを見ますと、毎日のように殺人事件や事故災難が報道されておりますから、どうしても悲観的な考え方になるのも無理はありませんが、哲学青年のように部屋に一人で閉じこもって机の上で頭を抱えていないで、時には部屋を飛び出し、外の現実を自分の目で目にゆくとよいのです。

日本の多くの場所で、あなたはピースポールを目にすることでしょう。そのたびに、あなたの悲観的な想念は次第に消え去ってゆくはずですが、アメニアのWPPCに参加なさってごらんください。悲観しながらでもよいから、「世界平和の祈り」の平和運動に加わり、「世界平和の祈り」を祈っている世界の同志と交際なさってごらんください。「世界平和の祈り」は人類の心を現実に光明化し、世界平和という理想を着実に現実化している事実を知ることができるでしょう。